

# 気候変動対策法（排出量取引及びその他の事項）修正法におけるニュージーランド排出量取引制度（NZ-ETS）の概要について

平成 25 年 4 月 26 日  
環境省市場メカニズム室

## 1. 背景

ニュージーランド排出量取引制度（NZ-ETS）は、気候変動対策（排出量取引）修正法（Climate Change Response (Emissions Trading) Amendment Act 2008）に基づき、森林部門を対象に開始され、2009年の気候変動対策法の再改正<sup>1</sup>を経て、2010年7月よりエネルギー部門、産業プロセス部門、液体化石燃料部門に対象が拡大された。

2010年には、気候変動対策法の規定に基づき、独立した ETS レビューパネルが設立された。同パネルは、ETS の制度設計及び運営に関する評価を実施し、2011年に制度の在り方等についての報告書を発表した<sup>2</sup>。同報告を受け、政府内で検討を行った結果、2012年11月に再度法改正がなされ、気候変動対策法（排出量取引及びその他の事項）修正法<sup>3</sup>が成立し、産業界への支援措置の延長などが決定された。

以下に今回の改正に基づく NZ-ETS の概要をまとめる。

## 2. 主な改正点<sup>4</sup>

2012年11月の法改正に伴う主な改正点は、以下のとおり。

- ・ 2012年まで終了予定だった固定価格オプション（政府からニュージーランド排出枠（New Zealand Unit, NZU）1単位当たり NZ\$25の固定価格で購入可能とする措置）及び 1 for 2 オプション（償却義務量の半減措置）を 2013年以降も継続する。これら措置の終了時期は明示しない。
- ・ オークション実施規則を制定し、オークションを実施する権限を政府に新たに付与する。
- ・ 農業部門は 2015年から対象となる予定だったが、2015年にレビューを行った上で義務遵守開始時期を決定することとする。

<sup>1</sup> 2009年気候変動対策（緩和された排出量取引）改正法 "Climate Change Response (Moderated Emissions Trading) Amendment Act 2009"

<sup>2</sup> NZ-ETS レビューパネル最終報告書 "Doing New Zealand's Fair Share: Emissions Trading Scheme Review 2011/Final Report"

<sup>3</sup> 2012年気候変動対策法（排出量取引及びその他の事項）改正法 "Climate Change Response (Emissions Trading and Other Matters) Amendment Act 2012",

<http://www.legislation.govt.nz/act/public/2012/0089/latest/DLM4676517.html>

上記改正を反映した気候変動対策法"Climate Change Response Act 2002"（以下"Act"）全文

<http://www.legislation.govt.nz/act/public/2002/0040/latest/DLM158584.html>

<sup>4</sup> Explanatory note, <http://www.legislation.govt.nz/bill/government/2012/0052/9.0/DLM4676512.html>

- ・ 森林部門に「オフセット・オプション」（1989年以前の森林所有者は、森林伐採等に伴う排出増を、他の土地に植林を行うことによりオフセットすることができる仕組み）を導入する。
- ・ 液体化石燃料部門における自主的参加者は、これまで国内航空機用燃料の大口購入者のみとしていたが、2013年7月以降、航空機燃料以外の液体化石燃料の大口購入者も自主的参加が認められる。
- ・ 自動車及びその他商品に含まれる合成ガスの輸入者等を対象事業者から除外し、代わりに自動車税及び物品税を課すこととする。
- ・ 登録簿規則改正<sup>5</sup>に伴い、使用可能な京都クレジットを変更する。2012年12月18日以降、産業ガス破壊プロジェクトからの ERU（CER は既に禁止）及び 20MW 以上の大規模水力発電からの CER/ERU の使用は認められない。

### 3. 2012年11月法改正後の NZ-ETS の概要<sup>6</sup>（変更点を下線で示す。）

対象ガス <sup>7</sup>	京都議定書対象6ガス（CO <sub>2</sub> 、CH <sub>4</sub> 、N <sub>2</sub> O、HFCs、PFCs、SF <sub>6</sub> ）
対象期間 <sup>8</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以下の各期間を遵守期間とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 第1遵守期間：2008年～2012年</li> <li>➢ 第2遵守期間以降：京都議定書第1約束期間に続いて設定される約束期間（設定されない場合は、2013年以降5年ごととする）</li> </ul> </li> <li>・ 排出枠の割当及び償却は毎年（暦年）実施する。</li> </ul>
対象部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林、液体化石燃料、エネルギー、産業プロセス、合成ガス、廃棄物、農業</li> </ul>

<sup>5</sup> <http://climatechange.govt.nz/emissions-trading-scheme/building/regulatory-updates/restricting-cers.html>

<sup>6</sup> 表内の下線箇所は、2012年11月の改正における変更点。

<sup>7</sup> "Act", Annex A

<sup>8</sup> "Act", section 69(1)

対象事業者 <sup>9</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部門の義務的参加者及び自主的参加者は以下のとおり。</li> </ul>	
	【森林部門】	
	遵守開始	2008年1月1日
	義務的参加者	<p>「1989年以前の森林」の所有者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1989年以前の森林とは、1989年末に森林であり、かつ2007年末においても森林（非原生林）である土地を指す<sup>10</sup>。</li> <li>2008年以降5年ごとの期間において、2ha以上の森林（非原生林）を伐採した場合、炭素吸収量の減少による排出分について償却義務を負う。</li> <li>ただし、所有面積が50ha以下の場合<sup>11</sup>は制度対象外とすることができる。</li> </ul>
自主的参加者	<p>「1990年以降の森林」の所有者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1990年以降の森林とは、以下の①~③のいずれかを満たす土地を指す<sup>12</sup>。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 1989年末に森林でなかった土地</li> <li>② 1989年末に森林であったが、1990年から2007年までに伐採された土地</li> <li>③ 2008年以降に伐採された土地であるが、ETSにおける償却義務を既に果たした土地</li> </ul> </li> <li>所有する森林吸収源による炭素吸収量について、NZUの割当を受けることができる。</li> </ul>	
オフセット・オプション	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>1989年以前の森林の所有者に対し、他の土地（＝オフセット森林地）に植林することにより義務免除を認めるオフセットのオプションを設定する<sup>13</sup>。</u></li> <li><u>同オフセット・オプションを選択した参加者は、2013年以降に森林部門に無償割当された排出枠を返還しなければならない<sup>14</sup>。</u></li> </ul>	

<sup>9</sup> "Act" section 54(1) 及び Schedule 3, Schedule 4

<sup>10</sup> "Act", section 4

<sup>11</sup> "Act" section 183

<sup>12</sup> "Act", section 4

<sup>13</sup> "Act", section 186A

<sup>14</sup> "Act", section 186H

対象事業者 (続き)	<b>【液体化石燃料部門】</b>	
	遵守開始	2010年7月1日
	義務的参加者 <sup>15</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年 50,000t以上の液体化石燃料の輸入者又は精製者</li> <li>「液体化石燃料」とは、ガソリン、自動車及び船舶用ディーゼル油、航空機用ガソリン、灯油型ジェット燃料、軽油、重油等を指す<sup>16</sup>。</li> <li>国内家庭消費用、国際航空・海運用燃料は対象外<sup>17</sup>。</li> </ul>
	自主的参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記参加者から年 10,000t以上の国内航空機用燃料を購入する事業者</li> <li>➤ <u>2013年7月以降、航空機燃料以外の大口液体化石燃料購入者も自主的参加が認められる<sup>18</sup>。</u></li> <li>自主的参加者に売却された燃料による排出は、義務的参加者の義務対象から除外される<sup>19</sup>。</li> </ul>
	<b>【エネルギー部門】</b>	
	遵守開始	2010年7月1日
	義務的参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>石炭：輸入者、年 2,000 トン以上の採掘者</li> <li>天然ガス：年 10,000t以上の輸入者、輸出用以外の採掘者</li> <li>地熱：発電・産業用発熱目的の地熱の使用者 等</li> </ul>
	自主的参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記石炭採掘者から年 250,000 トン以上を購入する事業者</li> <li>上記天然ガス採掘者から年 2 ペタジュール以上を購入する事業者</li> <li>自主的参加者に売却された燃料による排出は、義務的参加者の義務対象から除外される<sup>20</sup>。</li> </ul>
	<b>【産業プロセス部門】</b>	
	遵守開始	2010年7月1日
義務的参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄鋼、アルミニウム、クリンカー・生石灰、ガラス、金の製造を行う事業者</li> </ul>	

<sup>15</sup> 2012年12月現在、BP、Caltex、Gull、Mobil及びShellの5社が義務的参加者となっている。Ministry for the Environment, "Liquid fossil fuel suppliers' obligations: Reporting emissions and surrendering NZUs", <http://www.climatechange.govt.nz/emissions-trading-scheme/participating/fossil-fuels/obligations/>

<sup>16</sup> "Climate Change (Liquid Fossil Fuels) Regulations 2008", section 4 (1)

<sup>17</sup> "Climate Change (Liquid Fossil Fuels) Regulations 2008", section 5 (1)

<sup>18</sup> 自主的参加者の拡大に向けた詳細な規則に関しては、2013年中ごろに設定される見通し。  
<http://www.climatechange.govt.nz/emissions-trading-scheme/participating/fossil-fuels/faq.html>

<sup>19</sup> "Climate Change (Liquid Fossil Fuels) Regulations 2008", section 5 (1)

<sup>20</sup> "Climate Change (Stationary Energy and Industrial Processes) Regulations 2009", section 11 and 17

対象事業者 (続き)	<b>【合成ガス部門】</b>	
	遵守開始	2013年1月1日
	義務的参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SF<sub>6</sub> (電気開閉装置) の使用者</li> <li>・ HFCs・PFCs の輸入者及び製造者</li> </ul>
	<b>【農業部門】</b>	
	遵守開始	未定。2015年にレビューを行った上で決定される <sup>21</sup> 。
	義務的参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 化学肥料の輸入者・製造者</li> <li>・ 食肉加工業者</li> <li>・ 乳製品製造加工業者</li> <li>・ 牛、羊等の生きた動物の輸出者</li> </ul>
	<b>【廃棄物部門】</b>	
	遵守開始	2013年1月1日
	義務的参加者	廃棄物処理施設の運営者
	NZUの発行・割当 <sup>22</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NZUの各遵守期間における発行及び割当量、売却量等は、各遵守期間終了の9か月前までに公表される。</li> <li>・ 2012年3月、政府は2013年から2017年の5年間に発行・割り当てられるNZUを2億2,500万t-CO<sub>2</sub>とすると発表<sup>23</sup>。</li> </ul>

<sup>21</sup> Ministry for the Environment, "Legislative changes to the New Zealand Emissions Trading Scheme (NZ ETS)", <http://www.climatechange.govt.nz/emissions-trading-scheme/ets-amendments/>

<sup>22</sup> "Act", section 68, 69

<sup>23</sup> "New Zealand Gazette", March 29, 2012, [http://www.dia.govt.nz/Pubforms.nsf/NZGZT/NZGazette37Mar12.pdf/\\$file/NZGazette37Mar12.pdf](http://www.dia.govt.nz/Pubforms.nsf/NZGZT/NZGazette37Mar12.pdf/$file/NZGazette37Mar12.pdf)

割当方法	<p>(1) 無償割当</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下の部門に対して、排出枠を無償で割り当てる。</li> </ul> <p><b>【森林部門<sup>24</sup>】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1989年以前の森林の所有者に対して、以下の量の無償割当が実施される<sup>25</sup>。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 国有林の使用権 (Crown Forest<sup>26</sup> license) 保持者：18NZU/ha</li> <li>➤ 2002年11月1日以降に購入した森林の所有者：39NZU/ha</li> <li>➤ 2002年10月31日以前に購入した森林の所有者：60NZU/ha</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【漁業部門<sup>27</sup>】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漁業部門は NZETS の対象部門ではないが、ETS 導入後の燃料コスト上昇分を補償するために、漁獲割当量<sup>28</sup>保持者に対し、漁獲割当量をベースに無償で NZU を割り当てる。</li> <li>政府は、漁業部門の無償割当分として、70万 NZU を取り分ける。</li> </ul> <p><b>【産業部門】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カーボンリーケージのリスクがあるとされる産業活動に対して、ベンチマーク (allocative baseline) を設定し、無償割当を行う (次項参照)。</li> </ul> <p><b>【農業部門<sup>29</sup>】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各産業活動にベンチマークを設定し、生産量×ベンチマークの90%を無償で割り当てる。</li> <li>2013年1月現在、ベンチマークは未設定<sup>30</sup>。</li> </ul>
------	---

<sup>24</sup> "Act", section 70-72

<sup>25</sup> ただし、割り当てられた排出枠は、2012年12月31日以前と後の2回に分けて事業者の口座に分配される。"Act", section 72 (3)

<sup>26</sup> Crown Forest Land に関しては、ニュージーランド政府土地情報局 HP (<http://www.linz.govt.nz/crown-property/crown-forest-land/about-cfl>) を参照

<sup>27</sup> "Act", section 74 及び <http://www.climatechange.govt.nz/emissions-trading-scheme/participating/fishing/allocation/faq.html>

<sup>28</sup> 漁獲割当量 (fishing quota) とは、漁業者または漁船ごとに割り当てられた漁獲可能量を指す。漁獲割当量には譲渡性が付与されており、割当量を譲渡または貸し付けすることが可能。漁獲割当量については、NZ 第1次産業省 Fisheries InfoSite, "Quota Management System" (<http://fs.fish.govt.nz/Page.aspx?pk=81&tk=423>) を参照

<sup>29</sup> "Act", section 85

<sup>30</sup> Ministry for the Environment, "Agricultural allocation: NZUs for agriculture", <http://www.climatechange.govt.nz/emissions-trading-scheme/participating/agriculture/allocation/>

割当方法 (続き)	<p>(2) 有償割当</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 液体化石燃料部門、エネルギー部門、廃棄物部門は有償で排出枠を購入しなければならない。             <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 固定価格 (25NZ ドル/t-CO<sub>2</sub>) で政府より NZU を購入することも可能<sup>31</sup>。</li> <li>➤ 固定価格販売された NZU は、発行後すぐに償却口座に移転され、取引することはできない<sup>32</sup>。</li> </ul> </li> <li>・ <u>今後、オークションを通じた有償割当が実施される可能性があり、オークション量等<sup>33</sup>を定めたオークション実施規則が別途設定される<sup>34</sup>。</u></li> </ul>		
負担軽減措置	<p>(1) 炭素リーケージの生じる可能性の高い産業への無償割当</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">           ベンチマーク (BM) 設定対象         </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無償割当の対象となる産業活動は、以下の炭素集約度 (①あるいは②のいずれか) かつ貿易集約度を満たすもの、又はオーストラリアの炭素価格付け制度において、炭素・貿易集約度が高く無償割当対象とされている産業活動とする<sup>35</sup>。</li> </ul> <p>(1) 炭素集約度<sup>36</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 炭素集約度の高い産業： 排出量 (直接及び間接) が収益 100 万 NZ ドル当たり 1,600t-CO<sub>2</sub> 以上</li> <li>② 炭素集約度の比較的高い産業： 排出量 (直接及び間接) が収益 100 万 NZ ドル当たり 800t-CO<sub>2</sub> 以上</li> </ul> <p>(2) 貿易集約度<sup>37</sup></p> <p>産業活動に伴う生産物の国際貿易が行われていない、もしくは生産物の輸出入が経済活動としてほとんど行われていないとみなされる限り、すべての産業活動を貿易集約的とみなす。</p> </td> </tr> </table>	ベンチマーク (BM) 設定対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無償割当の対象となる産業活動は、以下の炭素集約度 (①あるいは②のいずれか) かつ貿易集約度を満たすもの、又はオーストラリアの炭素価格付け制度において、炭素・貿易集約度が高く無償割当対象とされている産業活動とする<sup>35</sup>。</li> </ul> <p>(1) 炭素集約度<sup>36</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 炭素集約度の高い産業： 排出量 (直接及び間接) が収益 100 万 NZ ドル当たり 1,600t-CO<sub>2</sub> 以上</li> <li>② 炭素集約度の比較的高い産業： 排出量 (直接及び間接) が収益 100 万 NZ ドル当たり 800t-CO<sub>2</sub> 以上</li> </ul> <p>(2) 貿易集約度<sup>37</sup></p> <p>産業活動に伴う生産物の国際貿易が行われていない、もしくは生産物の輸出入が経済活動としてほとんど行われていないとみなされる限り、すべての産業活動を貿易集約的とみなす。</p>
ベンチマーク (BM) 設定対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無償割当の対象となる産業活動は、以下の炭素集約度 (①あるいは②のいずれか) かつ貿易集約度を満たすもの、又はオーストラリアの炭素価格付け制度において、炭素・貿易集約度が高く無償割当対象とされている産業活動とする<sup>35</sup>。</li> </ul> <p>(1) 炭素集約度<sup>36</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 炭素集約度の高い産業： 排出量 (直接及び間接) が収益 100 万 NZ ドル当たり 1,600t-CO<sub>2</sub> 以上</li> <li>② 炭素集約度の比較的高い産業： 排出量 (直接及び間接) が収益 100 万 NZ ドル当たり 800t-CO<sub>2</sub> 以上</li> </ul> <p>(2) 貿易集約度<sup>37</sup></p> <p>産業活動に伴う生産物の国際貿易が行われていない、もしくは生産物の輸出入が経済活動としてほとんど行われていないとみなされる限り、すべての産業活動を貿易集約的とみなす。</p>		

<sup>31</sup> "Act", section 178A

<sup>32</sup> "Act", section 178B

<sup>33</sup> "Act", section 30GA

<sup>34</sup> "Act", section 6A

<sup>35</sup> "Act", section 161A(3)

<sup>36</sup> "Act", section 161C(1)(a)及び(b)

<sup>37</sup> "Act", section 161C(1)(c)

負担軽減措置（続き）	無償割当の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無償割当は、補助率×生産量×ベンチマークで決定される<sup>38</sup>。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 補助率は炭素集約度の度合いによって以下の二つに分けられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 炭素集約度の高い産業：90%</li> <li>② 炭素集約度の比較的高い産業：60%</li> </ul> </li> <li>➤ 償却義務量の半減措置（後項「排出枠の償却」参照）が終了し全量償却に変更された後、上記補助率は毎年減少する<sup>39</sup>。</li> </ul> </li> <li>・ 無償割当は毎年2回に分けて実施される<sup>40</sup>。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 暫定割当：対象事業者の昨年の生産実績に基づいて算出された無償割当量を暫定的に設定する。</li> <li>② 最終割当：当該年の生産量を基に無償割当量を計算し、暫定割当量との差を調整する。</li> </ul> </li> </ul>
	BM設定方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベンチマークは、対象となる各生産活動の、2006～2008年度<sup>41</sup>における生産1単位当たりの平均排出量により決定される<sup>42</sup>。</li> <li>・ 2013年1月現在、炭素集約度の高い産業13セクター、及び炭素集約度の比較的高い産業13セクターに対して、ベンチマークが設定されている<sup>43</sup>。</li> </ul>
<p>(2) 償却義務量の半減措置<sup>44</sup> (1 for 2 Option)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林部門以外の参加者の排出枠償却義務に関して、2 t-CO<sub>2</sub> の排出量につき、排出枠1単位の償却でよいこととする。<u>上記半減措置の終了期限は現在未定だが、同措置実施中は産業プロセス部門及び農業部門に対して無償で割り当てられる NZU 数も半減される<sup>45</sup>。</u></li> </ul>		
バンキング・ボローイング <sup>46</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バンキングは無制限に可能。</li> <li>・ ボローイングは不可。</li> </ul>	

<sup>38</sup> "Act", section 81

<sup>39</sup> "Act", section 85A、全量償却以降後の減少率は別途設定される。

<sup>40</sup> "Act", section 83

<sup>41</sup> 会計年度は7月1日から翌年6月30日まで。

Ministry for the Environment, "How much will be allocated: determining allocative baselines", <http://www.mfe.govt.nz/publications/climate/development-industrial-allocation-regulation-ets/page4.html>

<sup>42</sup> "Act", section 161C(2)

<sup>43</sup> "Climate Change (Eligible Industrial Activities) Regulations 2010", Schedule

<sup>44</sup> "Act", section 63A

<sup>45</sup> "Act", section 84A 及び 85B

<sup>46</sup> Ministry for the Environment, "Surrendering emission units", <http://www.climatechange.govt.nz/emissions-trading-scheme/obligations/surrendering-units.html>

オフセット・クレジット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 政府によって認可された海外の排出枠 (approved overseas units) : 別途規則によって認可される。現在、認可された排出枠はない<sup>47</sup>。</li> <li>• 京都クレジット (CER,ERU,RMU,AAU) : ただし以下を除く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 他国の AAU<sup>48</sup></li> <li>② HFC23 及び N<sub>2</sub>O の産業ガス破壊プロジェクト由来の CER<sup>49</sup>及び ERU<sup>50</sup></li> <li>③ 20MW 以上の大規模水力発電からの CER 及び ERU<sup>51</sup> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ②の ERU 及び③に関しては、2012 年 12 月 17 日以前に登録簿 (New Zealand Emission Unit Register, NZUER<sup>52</sup>) に登録されたものを除く<sup>53</sup></li> </ul> </li> <li>④ tCER、ICER 及び原子力プロジェクト由来の CER 及び ERU<sup>54</sup></li> </ul> </li> </ul>
登録簿	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 京都クレジット及び NZU の発行、保有、移転、償却を行うための電子登録簿 (NZUER) を設置する<sup>55</sup>。</li> <li>• NZU は AAU に転換<sup>56</sup>可能である。このうち、</li> <li>• 森林部門における炭素吸収量に対して発行された NZU に限っては、AAU に転換し、国外に販売することができる<sup>57</sup>。</li> </ul>
排出枠の算定・報告・検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 参加者は毎年 3 月 31 日までの間に、前年の排出量を報告しなければならない<sup>58</sup>。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 算定・報告・検証は自主的に実施し第三者検証は必須ではないが、根拠となるデータを 7～20 年間保持する必要がある<sup>59</sup>。</li> </ul> </li> </ul>
排出枠の償却	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 参加者は毎年 5 月 31 日までに、前年の排出量に見合う排出枠を償却しなければならない<sup>60</sup>。</li> </ul>

<sup>47</sup> "Act", section 4 及び Ministry for the Environment, " Surrendering emission units", <http://www.climatechange.govt.nz/emissions-trading-scheme/obligations/surrendering-units.html>

<sup>48</sup> "Act", section 18CB 及び 30E

<sup>49</sup> Climate Change (Unit Register) Regulations 2008, Section 8A

<sup>50</sup> Climate Change (Unit Register) Regulations 2008, Section 8B

<sup>51</sup> Climate Change (Unit Register) Regulations 2008, Section 8B

<sup>52</sup> NZUER のサイト : <http://www.eur.govt.nz/>。

<sup>53</sup> Climate Change (Unit Register) Regulations 2008, Section 8B

<sup>54</sup> Climate Change (Unit Register) Regulations 2008, Section 8、9 及び 10

<sup>55</sup> "Act", section 10 及び 18

<sup>56</sup> "Act", section 4 及び 18CA

<sup>57</sup> "Act", section 178C

<sup>58</sup> "Act", section 65(1)

<sup>59</sup> "Act", section 62 及び 67

<sup>60</sup> "Act", section 65(4)

違反行為・ペナルティ <sup>61</sup>	<p><b>【違反行為】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>排出量データ等の未収集・未報告、記録の未保持等に対し、最高 24,000NZ ドル<sup>62</sup>の罰金（故意の場合は最高 50,000NZ ドル）が科される。</li> <li>金銭的な利益等を得るために故意に虚偽の報告を行う等の行為に対しは、最高 50,000NZ ドルの罰金もしくは最高 5 年の懲役、あるいはその両方が科される。</li> </ul> <p><b>【償却不足等へのペナルティ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な排出枠を提出できなかった場合、不足分を提出した上で、30NZ ドル/t-CO<sub>2</sub>の罰金を支払わなくてはならない。</li> </ul>
--------------------------	---

#### 4. 制度の運用実績

ニュージーランド環境保護庁が 2012 年 6 月に発表した報告<sup>63</sup>によると、2012 年 6 月時点における制度参加者は 286 事業者であった。また、2012 年 6 月までに確認された報告書未提出は 4 社、排出枠不足は 3 社、排出枠未返還<sup>64</sup>は 1 社であった。

また、環境省が発表した報告<sup>65</sup>によると、2011 年の排出に対して提出された排出枠の内訳としては、NZU 約 27%、AAU 約 2%、CER 約 25%、ERU 約 26%、RMU 約 19%と、京都クレジットによる遵守が約 7 割を占めた。固定価格による政府からの購入オプションの利用は 0.45%となっている。

以上

<sup>61</sup> "Act", section 129~134

<sup>62</sup> 1NZ ドル≒ 75.8 円（2013 年 2 月 27 日）

<sup>63</sup> Environmental Protection Authority, "2011 Report"

<sup>64</sup> 排出枠返還が発生するケースは、産業部門向け無償割当の調整（割当量は、最終的に当該年度の生産実績を基に調整されるため、その際に既に見込みで受け取っている排出枠が多かった場合、返還が求められる）の場合などが該当する。

<sup>65</sup> Ministry for the Environment, "NZ ETS 2011 – Fact and figures"